岩手大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要　第2号（1992）pp. 87－104

女子高校生の進路意識についての研究

藤岡秀樹*・須藤雅子**

（1991年12月7日受理）

Hideki FUJIOKA and Masako SUDO

A Study of Career Consciousness of Girls' High School Students

女子高校の1年生から3年生までの生徒378名を被験者として，進路意識についての調査を行った。主な結果は以下の通りである。

①進路決定時に相談した相手がいる者は，就職希望者よりも進学希望者の方が多く，最も多かった相談相手は両親であった（特に母親）。友達や先生は学年の進行に伴い，多く選択されるようになる。②進学希望の理由としては「知識や技術の習得」「資格の取得」「就職時の有利さ」等が重視され，就職希望の理由としては「社会人としての早期自立」が重視されていた。③就きたい職業の選択理由としては，進学希望者では「やりがいのある仕事」「興味，関心がある」を，就職希望者では「興味，関心がある」「自分の好みに適合」を多く選んでいた。④就職についての様々な不安は存在するが，職業に就くための努力や進路成熟は，学年の進行と共に深まっていく。⑤文章完成法による進路意識の分析では，進路を決定することは先のことであり，決定に際しては自分自身が最も頼りになること，社会に出ることは独立・自立することや大人になること，と捉えていることがわかった。

〔キーワード〕　進路意識，進路決定，進路発達，進学希望，就職希望，女子高校生

問　題

進路意識・進路発達についての研究は，この10年間で数多く行われるようになり，進路指導にとって有益な示唆を与えてくれる成果を生み出している。最近の研究動向の1つに，進路決定過程の分析や進路未決定・不決断（indecision）の研究があげられる。

＊岩手大学教育学部教職科
＊＊岩手大学教育学部聴講生

下山（1983）は，高校生の青年期用文章完成法（ＳＣＴ）の結果から評定される発達段階・適応状態と進路決定に関する質問紙の結果に基づき，進路決定地位（“達成”から“無関心”までの８段階）を調べている。その結果，進路が既決か否かと発達段階とは関連がなく，模索経験と発達段階の高さに関連性があることを見出している。さらに，高校２年から高校卒業後１年目までの３年間の進路決定過程の縦断研究を行い（下山，1984），①高卒後，自己の進路決定の在り方を振り返るに際して，高校時代にどの様に進路に係わっていたかよりも，どの様な成績が取れていたかが重要になっていること，②教師は生徒の進路成熟を評価する際に，生徒の人格発達状況と共に成績要因を考慮していること－を見出している。また，下山（1982）は，ＳＣＴ・ＴＡＴ・ＣＤＴ等の心理検査や面接を使用して，高校生の縦断的事例研究を行い，進路決定の発達的意味について考察を行っている。

進学志望の意思決定の研究としては，渕上や三川の研究がある。中学生の高校進学志望動機の分析（渕上・狩野，1983）では，「知識欲求と自己実現」「大勢順応」「高校生活のエンジョイ」「社会生活の準備」「両親への配慮」「高校生活における内面的動機」「社会的地位としの通路」－の７因子を抽出し，進学志望動機の違いによって意思決定に際しての人的影響源との関連が異なることを見出している。高校生の大学進学志望動機の分析（渕上，1984a）では，「大学の本来的機能」「家族への配慮と規範機能」「モラトリアム機能」「大学の副次的機能」「大学の経済価値機能」－の５因子を抽出し，中学生の分析では抽出されなかった「モラトリアム機能」因子が抽出されたことや，人的影響源との関連性では，目的意識を持って進学しようとする意思決定がなされる際には，教師と父親の影響力が深く関係すること等が見出されている。そこで，渕上（1984b）は特定の大学・学部を選択する動機についての調査を行ったところ，①「志望大学の内容の充実」「志望大学の経済的・地理的要因」「自己実現への適合」「入学の可能性」－の４因子が抽出され，②大学を選択する際，生徒が適性や将来のことを考える上で，教師の影響力が強く，志望大学の経済的・地理的要因のことを考える上で，母親の影響力が強いこと，③特定大学選択動機の違いによって，志望大学のイメージに差異が見られること－の３点がわかった。一方，三川（1985）は，大学新入生に対して15の進学決定要因の重視度を調べ，現役入学者と浪人経験者の比較，共通一次試験の影響の差，合格した学部の満足度，卒業後の進路（就職か進学か），性差等を検討している。

ところで，進路未決定・不決断の研究も，中学生から大学生までを対象に幅広く行われている。例えば，清水・坂柳（1988）は，高校生の進路成熟，不決断と親や友人，教師の影響との関係の調査で，①父親と進路の問題を話すと答える息子は，進学と選職の両面の成熟度が高いのに対して，娘の場合は関係性がない，②母親は娘の進学・選職の双方に関

係を持つが，息子に対しては，進学の面で係わりが強い，③不決断と会話の程度との関係は，母親－娘を除けば関係はない，④教師は，女子生徒のみ教育的成熟において，強い影響を与えている－という知見を得ている。

上述の先行研究では，比較的大学進学率の高い県の学校を対象にしているが，現実には，進学率にはかなりの格差があり，結果を一般化できない面がある。本研究では，先行研究の知見を踏まえながらも，高進学率でない県のある高校を取り上げ，進路意識を中心とした調査を行うことにする。主な目的は，進路決定の相談相手の有無とその人物，進学・就職希望の理由，進学・就職・職業に関する関心・態度，職業選択の理由，文章完成法に表れる進路意識において，進学希望者と就職希望者の間に差異が見られるかどうかを検討することである。

方　法

1．被験者

青森県H市内のミッション系の私立ＨＳ女子高校の１年生から３年生までを調査の対象者とした。対象者は，３年生のＣコース（後述）を除く，各学年・各コースから，教務主任の先生が無作為に抽出した474名である。

ＨＳ高校では，キリスト教主義に基づく教育が行われ，キリスト教に関係した行事も多数催され，奉仕活動も行われていることが特色である。高校入学直後に，進路別にコースが分けられ，コースに応じたカリキュラムが設けられている。Ａコースは，高校卒業後就職を希望している生徒のためのコースで，簿記・そろばんや商業経済などの授業が開設されている。Ｂコースは，短期大学や専門学校進学を希望している生徒のためのコースで，進学希望校に合わせた補習授業を受講できるようになっている。Ｃコースは，国公立大学や有名私立大学に進学を希望している生徒のためのコースで，特に，受験に必要な主要教科中心のカリキュラムが設けられている。

2．調査項目

質問紙は，高校１年生用と２年生用は同一のものを用い，３年生用はそれに若干の質問項目を付加したものを用いた（無記名とした）。調査項目は，以下の通りである。

(1)　進路や将来，高校生活についての意識

調査は文章完成法の形式をとった。刺激語は下山（1983）の用いたものを準用した。①高校生活について思うことは（１・２年生用），高校生活を振り返って思うことは（３年生用）　②現在の自分に最も影響を与えたのは　③私にとって進路を決めることは　④

私にとって社会に出ることは　⑤自分を生かす　⑥私の将来　⑦進路について親は私に　⑧親の希望に対して私は　⑨進路決定で最も頼れるのは　⑩卒業を目前にして思うことは（３年生のみ）

(2)　現在希望している進路について

１・２年生に対しては，Ａ高校卒業後，進学を希望，Ｂ高校卒業後，就職を希望，Ｃ悩んでいて，まだ決定していない，Ｄ進路について考えていない－の４つの選択肢から，該当するものを選ばせた。次に，Ａ・Ｂを選択した者に対しては，その決定の時期や選択した理由，相談した相手の有無などについて，Ｃを選択した者に対しては，何についてどう悩んでいるのかを尋ねた。３年生用の質問紙は，進路を問う選択肢をＡとＢに限定した以外は，１・２年生用と同一であった。

(3)　将来就きたい職業について

将来就きたい職業があればその職名を記させ，希望理由を14の選択肢から３つ選ばせた。

(4)　進学についての関心・態度

進学についての不安や関心，態度などの11の要因について，当てはまるのかどうか，３段階で評定させた。

(5)　就職についての関心・態度

就職についての不安や関心，態度などの13の要因について，当てはまるのかどうか，３段階で評定させた。

(6)　将来の人生についての関心・態度

これから先の人生についてどの様に考えているのか，８要因について３段階で評定させた。

(7)　進路に関する悩み

進路に関して悩んでいることを自由記述させた。

３．手続き

対象者に，担任の先生から質問紙を配布していただき，自宅で回答してもらうという留置法の形態をとった。1990年12月10日に調査用紙を配布し，12月14日までに回収した。

結　果　と　考　察

１．進路希望の状況

回収した質問紙の内，不備のあるものを除外した有効数は，１年生が123名，２年生が

＊各コースの人数の比率は，ほぼ１：１：１である。

79名，3年生が176名であった。以下の分析は，この378名を対象とする*。なお，本報告では紙幅の都合上，コース別に分けて検討するのではなく，進学希望群と就職希望群の違いを検討することとする。

高校卒業後の進路希望の状況（3年生は決定状況）を集計したのが表1である。3年生のデータの中には，大学進学希望者が大半を占めるCコースの生徒のものが，含まれていない点を留意する必要があるが，1年生と3年生の進学希望者の割合は，約7割で同程度である。一方，2年生では，進学希望者が約4割であるのに対して，就職希望者は約46%とそれを上回っている。一方，進路未決定層（「悩んでいて，まだ進路を決定していない」＋「進路について考えていない」）が約15%存在していることも注目に値する。入学時には進学希望であっても，高校生活の半分を経過した時点では，就職希望に転じた者が相当数いることを示唆している。

表1　高校卒業後の進路希望の状況（3年生は決定状況）

高校卒業後の進路	1年生	2年生	3年生
進学（大学・短大・専門学校）を希望	72.9%	39.2%	69.9%
卒業後，就職することを希望	20.6	45.7	30.1
悩んでいて，まだ進路を決定していない	5.7	13.9	−
進路について考えていない	0.8	1.2	−

2．進路決定の時期について

進路決定の時期を進学希望者と就職希望者別に集計した（表2参照）。1年生と2年生の進学希望者の場合，約3割強が小学校時代に決定しているが，3年生では高校1年の時が最も多くて24.8%となっている。そして，高校時代の3年間で決定した者の割合は56%に達している。中学校時代の3年間で決定した者の割合は，1年生では56.0%，2年生では41.9%，3年生では30.4%となっている。1・2年生では，高校受験の際に，大学等への進学も意識して志望校を選択したために，この様な結果になったものと思われる。一方，3年生では，高校生活を通して，進路意識が次第に明確化・具体化され，就職希望から進学希望へ，或いは未決定から進学希望へと変動があったからではないかと思われる。

就職希望者の場合は，進学希望者の結果とは対照的で，現在の学年での決定者が最も多い（2年生では，1年時と2年時とが同数）。就職するにせよ，進学するにせよ，とりあえず高校に進学し，そこで決定する者が，就職希望者に多いことが伺われる。社会に出て働くということが現実味を帯びて，意識しだすのが，高校入学後であるということがわかる。

表2　進路決定時期

被験者 決定時期	進学希望者 1年生	2年生	3年生	就職希望者 1年生	2年生	3年生
小学校	35.2%	32.2%	12.8%	12.5%	10.4%	5.4%
中学1年生	18.6	16.1	12.0	3.1	8.3	0.0
2年生	8.8	16.1	6.4	15.6	8.3	3.8
3年生	28.6	9.7	12.0	15.6	10.4	3.8
高校1年生	8.8	12.9	24.8	53.1	31.3	5.7
2年生	−	9.7	16.0	−	31.3	17.0
3年生	−	−	15.2	−	−	52.8
無回答	0.0	3.3	0.8	0.0	0.0	11.5

3．進路決定時の相談相手について

進路決定時の相談相手の有無を調べた結果が表3である。進学希望者では，学年の進行に伴い，相談した者が多くなっている。上級学校の受験が具体化するにつれて，志望校の選択についての悩みや情報入手の必要性が生じ，相談を求めるようになってくる。一方，就職希望者では，2年生の相談した者が74.2%（進学希望者のそれと同数）を除けば，進学希望者よりも相談した者の割合は低い。自己判断・自己決定している者が少なからぬ存在していることを意味する。

表3　進路決定時の相談相手の有無

	進学希望者 1年生	2年生	3年生	就職希望者 1年生	2年生	3年生
相談した	54.9%	74.2%	81.6%	43.8%	74.2%	56.6%
相談しなかった	39.6	25.8	17.6	56.2	25.8	41.5
無回答	5.5	0.0	0.8	0.0	0.0	1.9

次に，相談相手がいる者を対象に，その相手は誰であるかを調べた（表4参照）。進学希望者でも就職希望者でも，最も多かった相談相手は「両親」であり，進学希望者は約4割，就職希望者では5割前後を占めている。「母親」に相談した者が相当数あるが，これは，被験者が女子高校の生徒であることと関係していると思われる。相談相手に「両親」や「家族」などの身内の者（＝私的エイジェント）を挙げている回答が多いが，進学希望者では，学年の進行に伴い，「先生」と回答した者の割合が増加している。進学に関する具体的情報を持つ，公的エイジェントである「先生」を相談相手として選んでいる点は，

妥当な結果であると言えよう。「友達」は，進学希望者も就職希望者も共に，学年の進行に伴い増加している。具体的な進路を考える際に生じる悩み等の相談に関しては，同じ状況にいる者同士で考え合うからであろう。また，学年の進行に伴い，相談の相手が複数になるという傾向も見られた。

表4　進路についての相談相手（複数回答可）

相談相手	進学希望者			就職希望者		
	1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	3年生
両　親	44.1%	40.6%	42.7%	50.0%	57.7%	43.2%
家　族	6.8	3.1	1.3	7.1	3.8	2.3
母　親	18.6	25.0	2.5	28.6	19.2	9.1
父　親	1.7	0.0	4.5	0.0	0.0	4.5
兄	1.7	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0
姉	3.4	3.1	0.6	0.0	0.0	0.0
友　達	8.5	18.8	22.9	14.3	15.4	22.7
先　生	6.8	9.4	24.2	0.0	0.0	11.4
先　輩	1.7	0.0	2.5	0.0	3.8	2.3
その他	6.8	0.0	1.9	0.0	0.0	4.5

4．進学希望の理由について

進学希望者の進学希望の理由をまとめたものが表5である。1年生では「希望している職業に就くため」が最も多く（50.5%），次いで「知識や技術を身に付けたいから」（49.5%）であった。2年生では「知識や技術を身に付けたいから」と「進学した方が就職の時やその後も有利だから」が共に第1位で（41.9%），第3位は「資格を取りたいから」（38.7%）であった。3年生では「資格を取りたいから」が第1位で（52.0%），第2位は「知識や技術を身に付けたいから」と「進学した方が就職の時やその後も有利だから」（44.0%）であった。本研究の3年生の被験者には，Cコースの生徒（人数的には少数であるが）が含まれていないので，その点を念頭におく必要がある。表5から，「資格取得」が学年進行に伴って増加していることが見出されるが，進路意識が明瞭になり，職業についての認識が具体性を持つようになった（＝進路成熟）からであろう。HS高校の場合，短期大学に進学して，幼稚園教諭や保母の資格を取ろうとする者が比較的多い。「周りの人が進学するから」や「進学しないと肩身が狭いから」といった消極的・受動的理由を選択した者の割合は極めて低く，「親や先生の勧め」といったエイジェントの影響に係わる要因も選択率は低い。一方，「社会へまだ出たくないから」が学年の進行と共に増加しており，モラトリアム的志向を持つ生徒が少なからぬ存在することがわかる。

表5 進学希望の理由（複数選択可）

	1年生	2年生	3年生
・周りの人が進学するから	11.0%	0.0%	1.6%
・資格を取りたいから	28.6	38.7	52.0
・知識や技術を身に付けたいから	49.5	41.9	44.0
・進学した方が就職の時やその後も有利だから	39.6	41.9	44.0
・進学した上で，将来の進路を考えたいから	13.2	16.1	12.8
・進学した方が，給料がよくなるから	6.6	25.8	9.6
・家族や先生に勧められたから	1.1	6.5	8.6
・進学しないと肩身が狭いから	6.6	0.0	4.8
・学生生活を楽しみたいから	23.1	12.9	16.0
・進学して視野を広げたいから	29.7	16.1	25.6
・多くの人と知り合いたいから	18.7	19.4	19.2
・社会へまだ出たくないから	11.0	16.1	20.0
・希望している職業に就くため	50.5	35.5	34.4
・そ の 他	2.2	0.0	2.4
・無 回 答	4.4	6.5	4.8

5．進学希望の学校を選んだ理由

希望している学校（学部・学科）を選んだ理由を集計したものを表6に示す。約2/3前後の選択率が見られた要因としては，「興味・関心をもっていることが学べそうだから」と「希望している職業に就くため」の2つであった。「その学校（学部・学科）なら入れそうだから」や「自分の能力に合っているから」などの合格可能性や能力・適性に関する要因は約2割から1/3程度の選択率であった。「その学校が地元にあるから」という地理的要因が，学年の進行に伴い重視されるようになる点は，被験者が女子のみであることに起因するものと思われる。「親の希望」や「先生が勧めるから」といったエイジェントの影響に係わる要因の選択率は低く，進学希望の理由の結果と同様であった。

表6 希望している学校（学部・学科）を選んだ理由（複数選択可）

	1年生	2年生	3年生
・その学校（学部・学科）なら入れそうだから	17.6%	19.4%	24.8%
・親の希望	14.3	22.6	11.2
・興味，関心をもっていることが学べそうだから	74.7	80.6	61.6
・友達もいくから	4.4	0.0	5.6
・先生が勧めるから	0.0	0.0	5.6
・希望している職業に就くため	78.0	74.2	69.6
・自分の能力に合っているから	29.7	35.5	24.8
・女性が比較的多い大学だから	0.0	3.2	2.4
・その学校が県外にあるから	23.1	16.1	12.0
・その学校が地元にあるから	29.7	22.6	40.0
・そ の 他	15.4	6.5	12.8
・無 回 答	4.4	6.5	11.2

6．進学に対する関心・態度

進学希望者の進学に対する関心・態度を集計したものを表7に示す。「上の学校の様子を知りたいと思う」「上の学校の特色・教育内容について知りたい」に関しては，“はい”の選択率は85%を超えており，2年生では96.7%に達していた。3年生で選択率が低下している理由は，調査時点では既に，志望校がほぼ確定しているからであると推察できる。約2/3程度の者が「上の学校に入学するのが楽しみである」と考えているが，その一方で，「上の学校に入学してから，うまくやっていけるか不安である」と5割強の者が考えており，「合格できなかったらどうしようかと思う」の肯定率が1・2年生で8割前後，3年生では5割強であった。この結果から，進学に関して期待と不安が混在していることがわかる。「自分の能力や性格が，どの学校（学部・学科）に向いているのか知りたい」という適性の自己理解に係わる要因も，2年生で選択率がピークになり（83.3%），3年生になると減少する。進路学習の結果，自己理解がある程度進み，方向付けが行われる様になったからであろう。「浪人」に関係する事項では，学年間で差異が見られる。「たとえ浪人しても，絶対入りたい学校（学部・学科）がある」の肯定率は1年生では約3割だが，2・3年生では半減し，「女性だから浪人したくないと思う」の肯定率は1年生では約1/3であるのに対して，2・3年生では約46%に増加している。女性であるが故に，進学に際して，何らかの制限があると親から言われている者の割合は，2割から3割を占めていることも表7から見出される。親の助言・要望と本人の希望との間にギャップがある

生徒が，少なからぬ存在することが伺われる。

表7　進学に対する関心・態度（単位は%）

	1年生			2年生			3年生		
	はい	どちらでもない	いいえ	はい	どちらでもない	いいえ	はい	どちらでもない	いいえ
・上の学校の様子を知りたいと思う	86.8	9.9	3.3	96.7	3.3	0.0	88.5	8.2	3.3
・上の学校の特色・教育内容について知りたい	87.9	8.8	3.3	96.7	3.3	0.0	83.6	12.3	4.1
・上の学校に入学するのが楽しみである	70.3	20.9	8.8	70.0	23.3	6.7	62.3	27.0	10.7
・上の学校に入学してから，うまくやっていけるか不安である	52.7	23.1	23.1	63.3	20.0	16.7	54.9	24.6	18.9
・上の学校について，いろいろ調べている	36.3	26.4	37.4	50.0	23.3	26.7	47.5	22.1	30.3
・合格できなかったらどうしようかと思う	74.7	11.0	14.3	81.0	13.3	6.7	54.1	18.9	23.8
・自分の能力や性格が，どの学校（学部・学科）に向いているのか知りたい	72.5	13.2	14.3	83.3	6.7	10.0	63.3	14.2	22.5
・たとえ浪人しても，絶対入りたい学校（学部・学科）がある	31.9	34.1	33.0	16.7	33.3	50.0	17.2	23.0	58.2
・女性だから浪人したくないと思う	34.1	23.1	42.8	46.7	23.3	30.0	45.9	23.0	30.3
・女性だから浪人は認めないと，親に言われている	16.8	18.7	64.8	23.3	10.0	66.7	19.5	17.9	61.8
・女性だから文系に進めと，親に言われている	0.0	3.3	96.7	0.0	3.3	96.7	2.5	9.1	86.8
・女性だから短大に進めと，親に言われている	3.3	3.3	93.4	10.0	3.3	86.7	11.5	13.9	65.6
・女性だから県外の大学にはいかせないと，親に言われている	11.0	13.2	75.8	20.0	13.3	60.0	18.9	10.7	63.9

7．就職希望の理由について

就職希望者の就職希望の理由をまとめたものが表8である。就職希望の理由は進学希望の理由とは異なり，選択率の高いものはなく，最も高くて4割弱である。1年生では「学問的勉強よりも仕事の方が合っていると思うから」が第1位で31.3%を占め，第2位は「社会人として早く自立したい」と「親から独立したいから」であった（いずれも28.1%）。2年生では「自分で自由になるお金が欲しいから」が第1位で34.0%を占め，第2位は「社会人として早く自立したいから」（29.8%）であった。3年生では「社会人として早く自立したいから」が第1位で37.0%を占め，1・2年生と比べると選択率が上昇していることがわかる。第2位は「学問的勉強よりも仕事の方が合っていると思うから」（32.6%）であった。自立や独立したいという願望が，就職希望の理由に反映していることが伺われる。また，勉学よりも仕事の方が向いている（適性）を理由に挙げた者が，2年生以外で3割に達しているが，その一方で，学力上の問題を理由に上げている者が2割強を占め，消極的な進路選択を行っている者の存在が見出し得る。「生きがいを見つける

ため」「自分の能力を伸ばすため」「視野を広くしたいから」といった比較的積極的な理由を挙げた者は約1割程度に留まっている。全般的に見ると，1年生と3年生は比較的類似した傾向が伺われるが，2年生は若干異なっていることがわかる。進学希望の理由でもこの傾向が部分的に見出されるが，2年生という時期は，進路選択における混乱・模索・葛藤が生じる時期であるからかもしれない。

表8 就職希望の理由（複数選択可）

	1年生	2年生	3年生
・学問的勉強よりも仕事の方が合っていると思うから	31.3%	12.8%	32.6%
・自分の学力では進学が難しいから	25.0	21.3	23.9
・親の希望	9.4	4.3	13.0
・先生の勧め	0.0	0.0	0.0
・女性に高学歴は必要ないから	6.3	0.0	0.0
・社会人として早く自立したいから	28.1	29.8	37.0
・自分で自由になるお金が欲しいから	21.9	34.0	19.6
・親から独立したいから	28.1	17.2	23.9
・生きがいを見つけるため	12.5	10.6	10.9
・自分の能力を伸ばすため	12.5	12.8	13.0
・視野を広くしたいから	12.5	23.4	13.0
・そ の 他	9.4	14.9	21.7
・無 回 答	3.1	12.8	13.0

8．将来就きたい職業について

将来就きたい職業があるかどうかを調べたところ，進学希望者では，就きたい職業があると答えた者は1年生で65.9%，2年生で61.3%，3年生で68.0%を占め，就きたい職業がないと答えた者は1年生で33.0%，2年生で32.0%，3年生で25.6%であった（他は無回答）。就職希望者では，就きたい職業があると答えた者は1年生で56.3%，2年生で41.7%，3年生で50.9%を占め，就きたい職業がないと答えた者は1年生で43.7%，2年生で47.9%，3年生で28.3%であった。就職希望者の方が進学希望者よりも，就きたい職業があると答えた者の割合が低いことは，意外な結果である。就職希望者の無回答率は，1年生0.0%，2年生10.4%，3年生20.8%と増加している。この無回答層は，就きたい職業があるとも言い切れないし，かといってないとも言えない，漠然とした職業意識を抱いている者が多く含まれており，問題を内包している層であると思われる。

次に，将来就きたい職業がある者に対して，その職業を選んだ理由を13の選択肢から3つ選ばせた。その結果を表9に示す。選択率の高かった理由は，進学希望者では「やりが

いのある仕事だから」「興味，関心のあることだから」，就職希望者では「興味，関心のあることだから」「自分の好みに合っているから」であった。就職希望者の場合，2年生で上述の理由の選択率が低下していることが特徴として見出される。働きがいや興味・関心，好みなどが重視されていることがわかるが，「やりがいのある仕事だから」に関しては，就職希望者よりも進学希望者の方がかなり重視している点が，両者の相違点である。

表9　将来就きたい職業を選んだ理由（複数選択可）

	進学希望者			就職・希望者		
	1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	3年生
・自分の能力を生かせるから	14.3%	13.9%	18.4%	12.5%	6.4%	21.7%
・やりがいのある仕事だから	53.8	45.2	48.0	21.9	19.1	23.9
・自分の好みに合っているから	28.6	19.4	34.4	37.5	19.1	32.6
・世のため，人のために役に立つから	15.4	16.1	9.6	3.1	6.4	2.2
・高収入だから	5.5	0.0	5.6	3.1	8.5	2.2
・安定しているから	13.2	16.1	8.8	6.3	8.5	8.7
・結婚後も働けるから	8.8	9.7	16.0	12.5	6.4	13.0
・地元にいられるから	4.4	3.2	3.2	0.0	0.0	2.2
・親元から離れられるから	0.0	0.0	1.6	6.3	6.4	0.0
・女性の多い仕事だから	1.1	3.2	0.0	6.3	4.3	2.2
・知っている人がいるから	0.0	3.2	1.6	3.1	0.0	2.2
・興味，関心のあることだから	49.5	41.9	38.4	43.8	17.2	32.6
・専門職だから	2.2	6.5	5.6	0.0	2.1	10.9
・そ　の　他	4.4	6.5	3.2	3.1	2.1	2.2
・無　回　答	2.2	6.5	7.2	0.0	4.3	4.3

9．就職についての関心・態度

就職についての関心・態度について，3段階で評定をさせた。進学希望者の結果を表10-1に，就職希望者の結果を表10-2に示す。両者共，「自分が将来どんな職業に向いているか，知りたいと思う」「自分が希望する職業にどうしたら就けるのか，知りたいと思う」「自分が希望する職業の内容や特色について，知りたいと思う」の肯定率は高く，進学希望者では概ね8割以上，就職希望者では7割以上の値を示していた。「希望する職業に就けるかどうか，不安である」の肯定率は，両者共，1・2年生では7割以上の肯定率であったが，3年生になると，進学希望者ではほぼ同水準の値を示すのに対して，就職希望者では26%に激減する。3年生の就職希望者の大半は，調査時点では既に就職先がほぼ確定しているのに対して，進学希望者の場合は，少なくとも2年以上後に社会人になるので，漠然とした不安が残り，この様な結果になったと言えよう。また，「就職したらうまく

いけるかどうか，不安である」が進学希望者では6割前後，就職希望者では7割強の肯定率であった。職業適性の自己理解や職業に関する知識の習得，職業に就くための努力等に関する項目の肯定率は，学年の進行に伴い上昇している。進路成熟・進路学習の成果であり，このことは妥当な結果であると言える。

表10-1　就職・職業についての関心・態度［進学希望者］（単位は%）

	1年生			2年生			3年生		
	はい	どちらでもない	いいえ	はい	どちらでもない	いいえ	はい	どちらでもない	いいえ
・自分が将来どんな職業に向いているか，知りたいと思う	80.4	7.6	12.0	85.7	7.1	7.1	89.4	6.7	3.8
・自分がどんな職業に向いているか知っている	3.3	35.6	60.0	14.3	39.3	46.2	26.9	30.8	42.3
・希望する職業にどうしたら就けるのか，知りたいと思う	85.7	10.0	3.3	100.0	0.0	0.0	78.1	14.3	7.6
・希望する職業にどうしたら就けるのか知っていて，努力している	27.2	38.0	33.7	21.7	39.3	39.3	32.7	33.7	33.7
・希望する職業の内容や特色について，知りたいと思う	83.5	9.9	5.5	89.3	10.7	0.0	84.6	3.8	9.6
・希望する職業の内容や特色について知っている	23.0	41.8	35.1	28.6	32.1	39.3	31.1	38.8	28.2
・きちんとした社会人になれるかどうか，不安である	62.2	22.2	15.4	59.3	25.9	14.8	60.6	20.2	19.2
・希望する職業に就けるかどうか不安である	80.4	12.0	7.6	85.7	7.1	7.1	68.3	16.3	15.4
・就職したらうまくやっていけるかどうか，不安である	67.4	18.5	13.0	57.1	25.0	17.8	68.9	12.6	18.4
・就職したら親元を離れ独立したい	47.3	41.8	9.9	57.1	28.6	14.3	49.5	35.0	14.6
・女性だから県外に就職するのはいけないと，親に言われたことがある	16.5	8.8	74.7	28.6	7.1	64.3	17.3	7.7	74.0

無回答が存在するため，合計が100%とならない項目がある

表10-2　就職・職業についての関心・態度［就職希望者］（単位は%）

	1年生			2年生			3年生		
	はい	どちらでもない	いいえ	はい	どちらでもない	いいえ	はい	どちらでもない	いいえ
・自分が将来どんな職業に向いているか，知りたいと思う	93.8	3.1	13.1	80.9	14.9	6.3	84.8	2.2	13.0
・自分がどんな職業に向いているか知っている	6.2	43.8	12.5	17.0	29.8	53.2	23.9	28.3	47.8
・希望する職業にどうしたら就けるのか，知りたいと思う	78.1	12.5	9.4	70.8	20.8	8.3	56.5	26.1	17.4
・希望する職業にどうしたら就けるのか知っていて，努力している	12.5	21.9	65.6	10.6	31.9	57.4	28.3	32.6	39.1
・希望する職業の内容や特色について，知りたいと思う	75.0	18.8	6.3	74.5	17.0	8.5	76.1	13.0	10.9
・希望する職業の内容や特色について知っている	12.5	37.5	50.0	12.8	29.8	55.3	54.3	26.1	19.6
・きちんとした社会人になれるかどうか，不安である	56.3	21.9	21.9	63.8	12.8	23.4	60.9	10.9	28.3
・希望する職業に就けるかどうか不安である	68.8	18.8	12.5	72.3	14.9	12.8	26.1	28.3	45.7
・就職したらうまくやっていけるかどうか，不安である	75.0	15.6	9.4	70.2	14.9	14.9	73.9	8.7	15.2
・就職したら親元を離れ独立したい	62.5	31.3	6.3	51.1	31.9	17.0	43.5	34.8	21.7
・女性だから県外に就職するのはいけないと，親に言われたことがある	31.3	15.6	53.1	34.0	8.5	57.4	23.9	8.7	67.4

無回答が存在するため，合計が100%とならない項目がある

10. 進路や将来，高校生活について意識［文章完成法の結果］

ＳＣＴ（文章完成法）の形式を用いて進路や将来，高校生活についての意識を調べた。反応内容を分類し，内容別に出現率を求めた。なお，２つ以上の項目にまたがっている場合は，各々に計上した。紙幅の都合上，分析結果の一部を紹介しよう。

(1)　「私にとって進路を決めることは……」（表11-1参照）

最も多い反応は，人生や職業等に関して「これから先のこと」であると捉えたもので，就職希望者の１年生と進路希望者全学年で約３割，就職希望者の２・３年生で17％を占めていた。就職希望者は２年の後半になると，進路の決定は目前に迫り，先のこととは思っていないことがわかる。「とても大切で，重要なこと」と捉えている者も，進学希望者では15％前後，就職希望者では２年生を除いて，その半数程度存在した。「とても難しくて，大変なこと」という反応は，進学希望者と就職希望者とでは対照的で，前者では漸減するのに対して，後者は３年生で増加している。「たいしたことではなく，簡単」「考えていない」という反応はほとんど無く，真面目に進路を考えていることがわかる。

表11-1　ＳＣＴ「私にとって進路を決めることは…」の結果

内　　容	進学希望者			就職希望者		
	１年生	２年生	３年生	１年生	２年生	３年生
・とても難しく，大変なこと	20.0％	12.0％	9.4％	6.8％	1.9％	18.6％
・まだ早い，考えたくない	2.4	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0
・とても大切で，重要なこと	14.1	16.9	17.1	6.9	17.0	8.5
・考えると意欲が湧いてくる	5.9	2.4	0.9	0.0	1.9	0.0
・たいしたことではなく，簡単	5.9	2.4	3.4	3.4	3.8	6.8
・目標となる	7.1	3.6	1.7	0.0	5.7	3.4
・先のこと（将来・人生・職業）	31.8	28.9	30.8	27.6	17.0	16.9
・悩んでいる	1.2	2.4	6.8	10.3	5.7	3.4
・成績に左右されること	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
・考えていない	4.7	0.0	0.0	6.9	0.0	0.0
・わからない	0.0	1.2	0.0	3.4	0.0	0.0
・そ　の　他	5.7	29.0	28.2	24.3	32.9	42.4
・無　回　答	0.0	1.2	0.0	10.3	15.1	0.0

(2)　「私にとって社会に出ることは…」（表11-2参照）

１年生では「独立・自立すること」という反応が最も多く，その割合は就職希望者の方が高かった。「大人になること」という反応が，両者共に，学年の進行に伴って増加していることも目立つ。１年生では，親元を離れて一人で生活するという，表面的な独立・自立を考えているのに対して，上級学年になるにつれて，社会に出ることで一人前になると

いう，精神的な自立意識が，徐々に形成されるからではないだろうか。不安を抱いている層（「不安で心配」＋「不安であるが，期待もある」）は，2年生で減少する（進学希望者14.4%，就職希望者11.3%）が，1年生と3年生では約2割（ただし1年の進学希望者は29.4%）を占めている。1年生では，進路情報の不足や漠然とした進路意識に起因しているのに対して，卒業間近の3年生では，社会に出るのが近未来になり，不安が意識化されたからではないだろうか。

表11-2　SCT「私にとって社会に出ることは…」の結果

内　　容	進学希望者			就職希望者		
	1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	3年生
・とても楽しみで，期待している	8.2%	3.6%	1.7%	10.3%	0.0%	1.7%
・不安で心配である	20.0	9.6	15.4	10.3	7.5	10.2
・不安であるが，期待もある	9.4	4.8	6.8	10.3	3.8	8.5
・まだ早い，考えられない	8.2	0.0	6.8	0.0	0.0	0.0
・難しいと思うが，頑張りたい	2.4	0.0	8.5	0.0	0.0	3.4
・なるようになるだろう	2.4	0.0	1.7	0.0	3.8	1.7
・独立・自立すること	21.2	8.7	4.3	34.5	17.0	8.5
・成長するために大切なこと	10.6	12.0	3.4	10.3	0.0	8.5
・大人になること	0.0	9.6	17.9	0.0	7.5	20.3
・わからない	3.5	0.0	2.6	0.0	0.0	1.7
・そ　の　他	11.4	48.1	30.9	24.3	56.6	35.5
・無　回　答	2.4	3.6	0.0	0.0	3.8	0.0

(3)　「私の将来…」（表11-3参照）

具体的に就きたい職業名を記入している者が，2・3年の就職希望者を除いて多くを占めていた。「一般的なライフコースの受容」（「結婚して平凡に生きている」「結婚して，良き妻，良き母になっている」等を記載）に該当する者は，2年の進学希望者を除いて約1割強存在している。“結婚”を意識した記述が多く見られるのが，この層の特徴である。「未決定」や「わからない」と記した就職希望者は，1・2年生で各々1割程度存在するが，3年になると激減することもわかる。全般的に，将来展望をきちんと持っている生徒が多いことが，SCTの結果から見出された。

表11-3　ＳＣＴ「私の将来…」の結果

内　　容	進学希望者 1年生	進学希望者 2年生	進学希望者 3年生	就職希望者 1年生	就職希望者 2年生	就職希望者 3年生
・具体的な職業に就いている	43.5%	27.7%	25.6%	20.7%	9.4%	8.5%
・ある程度のことは決めている	0.0	14.5	6.8	0.0	3.8	13.6
・一般的なライフコースの受容	11.8	1.2	12.8	17.8	15.1	13.6
・私の将来は自分で決める	0.0	0.0	6.8	0.0	0.0	5.1
・私の将来のため努力したい	0.0	4.8	1.7	10.3	1.9	0.0
・とても楽しみで期待している	0.0	7.2	8.5	0.0	1.9	6.8
・不安である	9.4	2.4	3.4	0.0	5.7	6.8
・未　決　定	5.9	2.4	5.1	13.8	9.4	1.7
・悩んでいる	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0
・不安だが，期待している	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0
・考えていない	0.0	1.2	0.9	3.4	1.9	1.7
・わからない	5.9	4.8	0.0	10.3	9.4	0.0
・そ　の　他	23.5	31.4	17.9	24.3	41.5	35.4
・無　回　答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.8

(4)　「進路について親は私に…」（表11-4参照）

「好きな道を進むようにと任せてくれる」という反応が最も多く，親の考えの押し付けや生徒の考えに反対したり，制限を加えたりするという記述は，２年生で若干増えているものの（進学希望者で25.4%，就職希望者で20.8%），概ね１割前後しか見られず，親は生徒の進路決定について理解を示し，生徒も親を信頼していることが伺える。

表11-4　ＳＣＴ「進路について親は私に…」の結果

内　　容	進学希望者 1年生	進学希望者 2年生	進学希望者 3年生	就職希望者 1年生	就職希望者 2年生	就職希望者 3年生
・私の好きな道を進むようにと任せてくれる	25.9%	43.4%	34.2%	44.8%	22.6%	20.3%
・親は希望をいう	18.8	12.3	6.8	20.7	9.4	5.1
・親は何も言わない	15.3	3.6	6.0	6.9	17.0	18.6
・親は制限するようなことを言う	8.2	20.6	6.8	3.4	17.0	3.4
・アドバイスしてくれ，相談にのってくれる	14.1	12.6	7.7	6.9	1.9	8.5
・励ましてくれ，協力してくれる	0.0	1.2	7.7	0.0	1.9	6.8
・私の考えに賛成してくれる	8.2	3.6	5.1	6.9	5.7	5.1
・親の考えを押しつける	2.4	3.6	0.9	0.0	3.8	0.0
・私の考えに反対する	1.2	1.2	4.3	0.0	0.0	6.8
・そ　の　他	3.5	0.9	15.4	3.5	15.0	16.9
・無　回　答	2.4	0.0	5.1	6.9	5.7	8.5

(5)　「進路決定で最も頼れるのは…」（表11-5参照）

複数の反応を記した被験者も多く見られたが，その中で「自分自身」という反応が最も多く，2年の就職希望者の22.6%を除けば，1/3から4割を占めていた。「自分自身」がメインに位置し，それに誰か（両親や教師等）が付随するという反応も多かった。「両親」と「先生」も比較的多く記されていたが，進学希望者では両者の反応数はほぼ同程度（ただし1年生は「先生」重視）であったのに対して，就職希望者では「両親」重視の傾向が見られた。「成績」や「偏差値やその他データ」は，進学希望者で反応数が多いが，このことは，現在の受験体制を反映した結果であると言えよう。しかし，3年生になると減少し，進路決定に成績や偏差値によってあまり左右されない傾向が伺われ，望ましい結果であると思われる。進路学習が行われ，自己理解が進み，進路意識が明瞭化された結果ではないだろうか。進路希望者も就職希望者も共に，3年になるとそれまでよりも「友達」の反応数が増加し，表4の結果ともほぼ合致したものとなっている。進路決定をしなければならないという同じ立場に立つ友達同士が，悩みを共有でき，インフォーマルなレベルの内容に関しても自由に相談できるからではないだろうか。

表11-5　ＳＣＴ「進路決定で最も頼れるのは…」の結果

内　　容	進学希望者			就職希望者		
	1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	3年生
・自分自身	34.1%	43.4%	40.2%	34.5%	22.6%	37.3%
・両　親	8.2	16.9	25.6	34.5	15.1	20.3
・友　達	5.9	8.4	16.2	10.3	7.5	16.9
・先　生	25.9	15.7	28.2	13.8	17.0	11.9
・偏差値やその他のデータ	9.4	8.4	2.6	0.0	1.9	0.0
・成　績	12.9	12.0	0.9	0.0	5.7	0.0
・周りの人	4.7	8.4	10.3	10.3	9.4	10.2
・わからない	5.9	0.0	2.6	3.4	3.8	1.7
・な　い	8.2	1.2	1.7	0.0	1.9	3.4
・そ の 他	3.5	13.3	3.4	6.9	5.7	1.7
・無 回 答	0.0	3.6	6.8	10.3	22.6	10.2

11. 全体のまとめ

女子高校生を被験者として進路意識についての調査を行ったところ，以下の結果を得た。

(1)　進路決定時に相談相手がいるものは，就職希望者よりも進学希望者の方が多く，最も多かった相談相手は両親（特に母親）であり，友達や先生は学年の進行に伴い，多く選択されるようになる。

(2)　進学希望の理由としては「知識や技能の習得」「資格の取得」「就職時の有利さ」

等が，就職希望の理由としては「社会人としての早期自立」が重視されていた。

(3) 就きたい職業の選択理由としては，進学希望者では「やりがいのある仕事」「興味・関心」を，就職希望者では「興味・関心」「自分の好みに適合」を多く選んでいた。

(4) 就職についての様々な不安は存在するが，職業に就くための努力や進路成熟は，学年の進行と共に深まっていく。

(5) 文章完成法による進路意識の分析では，進路を決定することはまだ先のことであると認識し，決定に際しては，自分自身が最も頼りになると考え，社会に出るということは，独立・自立することや大人になることと捉えていることが見出された。

次に，残された課題について述べよう。本研究では，下山（1983）の様に，ＳＣＴの結果を用いて発達段階や適応状態による被験者の群分けを行い，進路意識の群間の差異を調べる方法を採らなかった。よって，ＳＣＴの結果や他の資料から決定される進路決定地位と様々な進路意識との関係を調べることが，今後の課題であろう。また，本研究の被験者は普通科女子高校の生徒であった。男子生徒の進路意識を調べて比較検討することや，職業科高校の生徒のデータを入手し，校種間の比較をすることも今後の課題であろう。なお，本稿では，紙幅の都合上，質問項目の全ての結果を報告することができなかった。この点については，別の機会に譲りたい。

文　　献

渕上克義　1984a　進学志望の意思決定過程に関する研究　教育心理学研究，32，59－63.

渕上克義　1984b　大学進学決定におよぼす要因ならびにその人的影響源に関する研究　教育心理学研究，32，228－232.

渕上克義・狩野素朗　1983　進学志望の意思決定における対人的影響に関する研究　九州大学教育学部紀要（教育心理学部門），28(２)，91－96.

三川俊樹　1985　大学への進学決定に関する研究　進路指導研究，６，14－19.

清水和秋・坂柳恒夫　1988　進路不決断と進路成熟　－父親，母親，友人，教師の影響に関する高校生の横断的な研究　進路指導研究，９，28－36.

下山晴彦　1982　高校生の人格発達と進路決定　－テストバッテリーを用いての縦断的事例研究－　東京大学教育学部紀要，22，211－222.

下山晴彦　1983　高校生の人格発達状況と進路決定との関連性についての一研究　教育心理学研究，31，157－162.

下山晴彦　1984　ある高校の進路決定過程の縦断的研究　教育心理学研究，32，206－211.